

第4節 安全で快適な生活環境の実現

第1項 災害に対する不安を減らすようにします

めざしたい将来像:

市民一人ひとりの防災意識を高め、自助・共助・公助の災害発生時の対応体制を確立し、災害に強く命を大切にする社会を実現します。

指標

災害に対して自ら対策を講じている人の割合

(1) 指標の説明

ひとたび大地震が起これば建物の倒壊、火災、ライフライン等への多大な被害が発生し、人的被害が拡大する危険が潜んでいます。これらの被害を最小限に抑えるためには、行政による防災体制の確立を図るとともに、地域住民の防火防災意識の高揚や自主的な訓練など、日ごろからの備えが極めて重要です。そこで、災害に対して自ら対策を講じている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q15 あなたは日頃、防災のための準備をしていますか。(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 消火器の設置 | 6 身内との連絡方法の確立 |
| 2 住宅用火災警報器の設置 | 7 避難経路や避難場所の確認 |
| 3 家具などの転倒防止 | 8 防災訓練などへの参加 |
| 4 水や食糧の備蓄 | 9 その他() |
| 5 非常持ち出し用品の確保 | 10 特に準備はしていない |

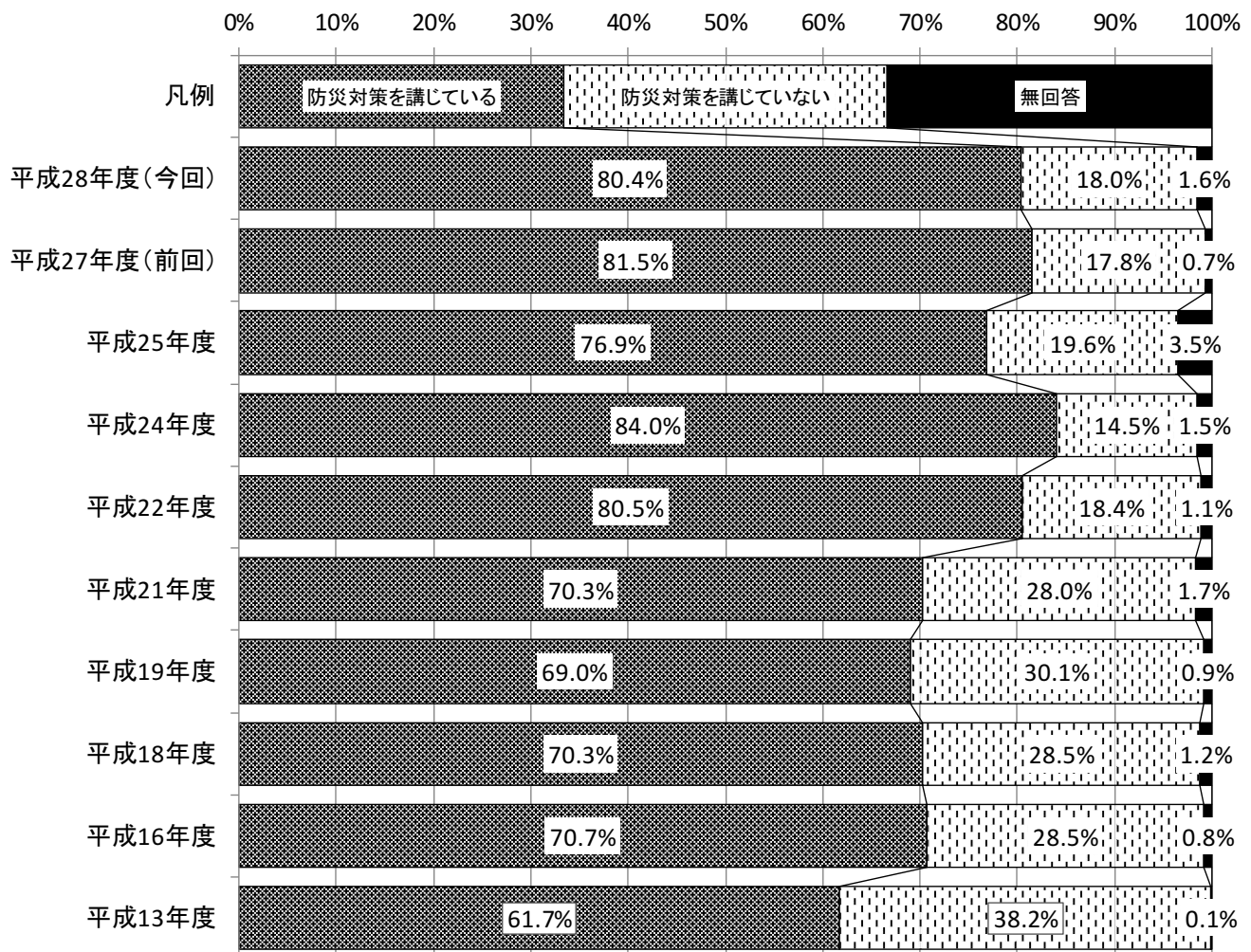
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
災害対策を講じている	61.7%	70.7%	70.3%	69.0%	70.3%	80.5%	84.0%	76.9%	81.5%	80.4%

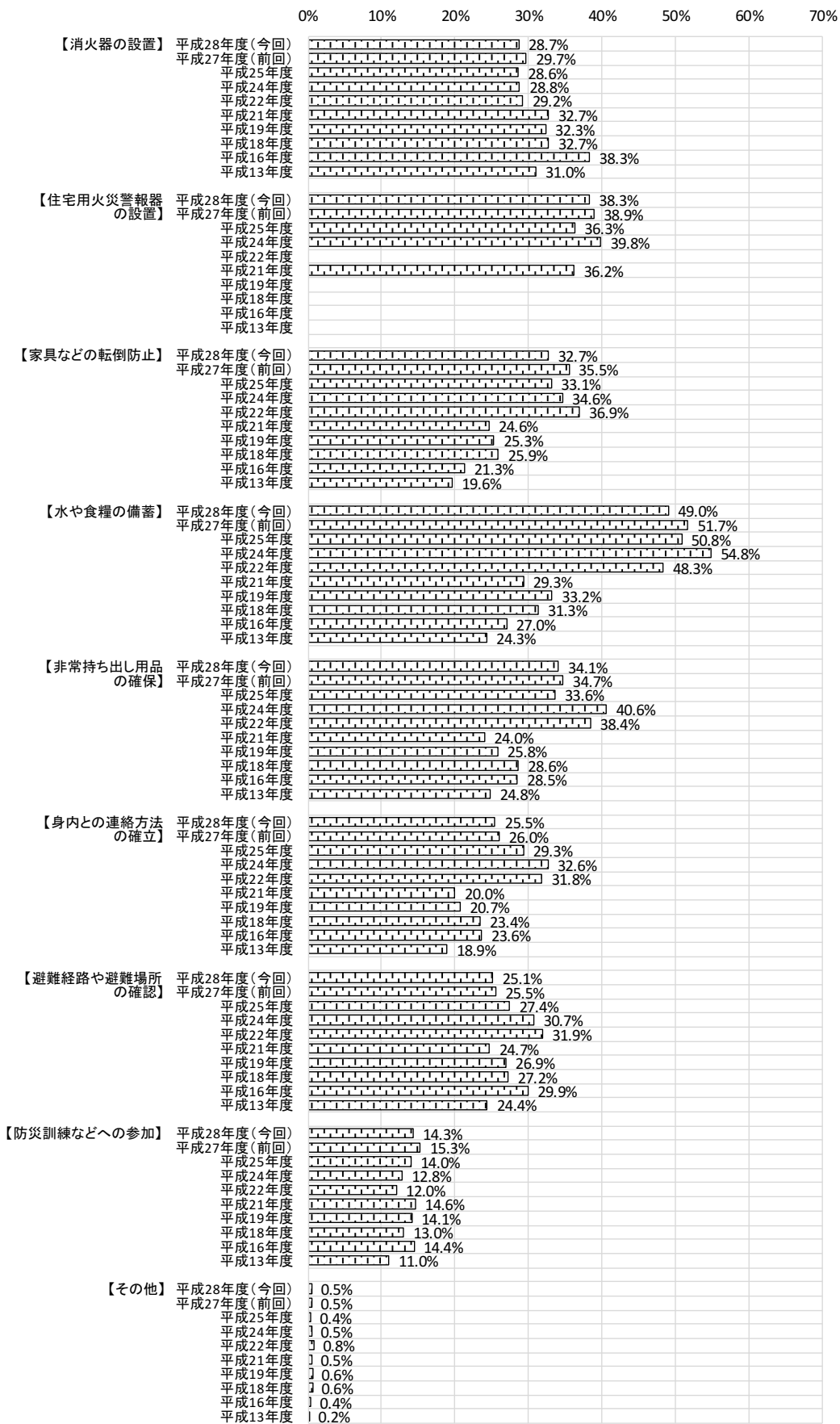
(4) 指標の分析

☆防災の準備をしている人は8割を超えています。

災害に対して何らかの対策を講じている人は80.4%であり、8割を超えています。前回調査より1.1ポイント減少しています。

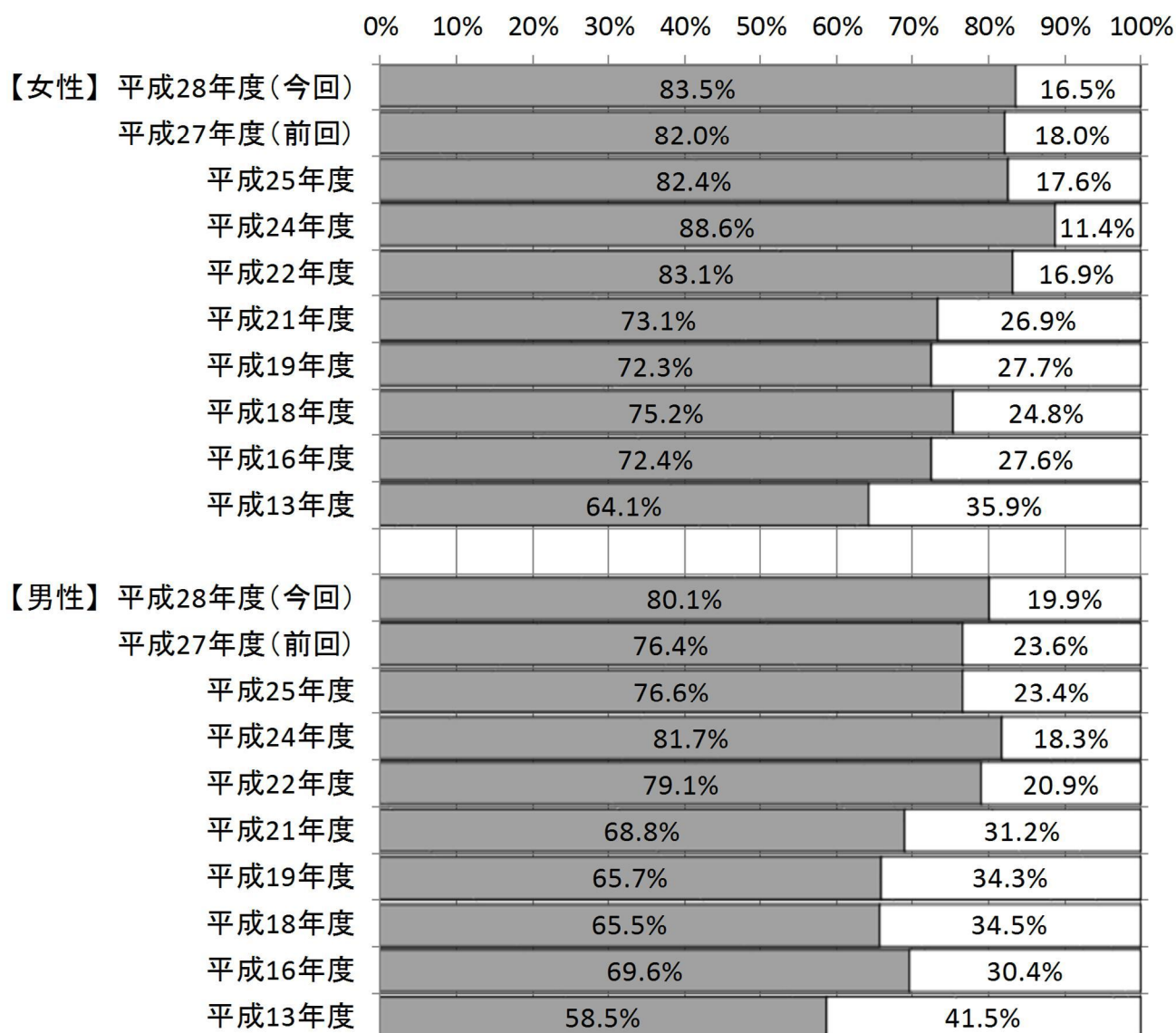


日頃、防災のために準備していることとしては、“水や食料の備蓄”が 49.0%を占めており、最多となっています。次いで“住宅用火災警報器の設置”(38.3%)、“非常持ち出し用品の確保”(34.1%)、“家具などの転倒防止”(32.7%)の順となっています。



性別で見ると、男女とも前回調査より増加しており、“女性”83.5%、“男性”80.1%となっています。男女とも 8 割以上の人が災害に対して何らかの対策を講じています。

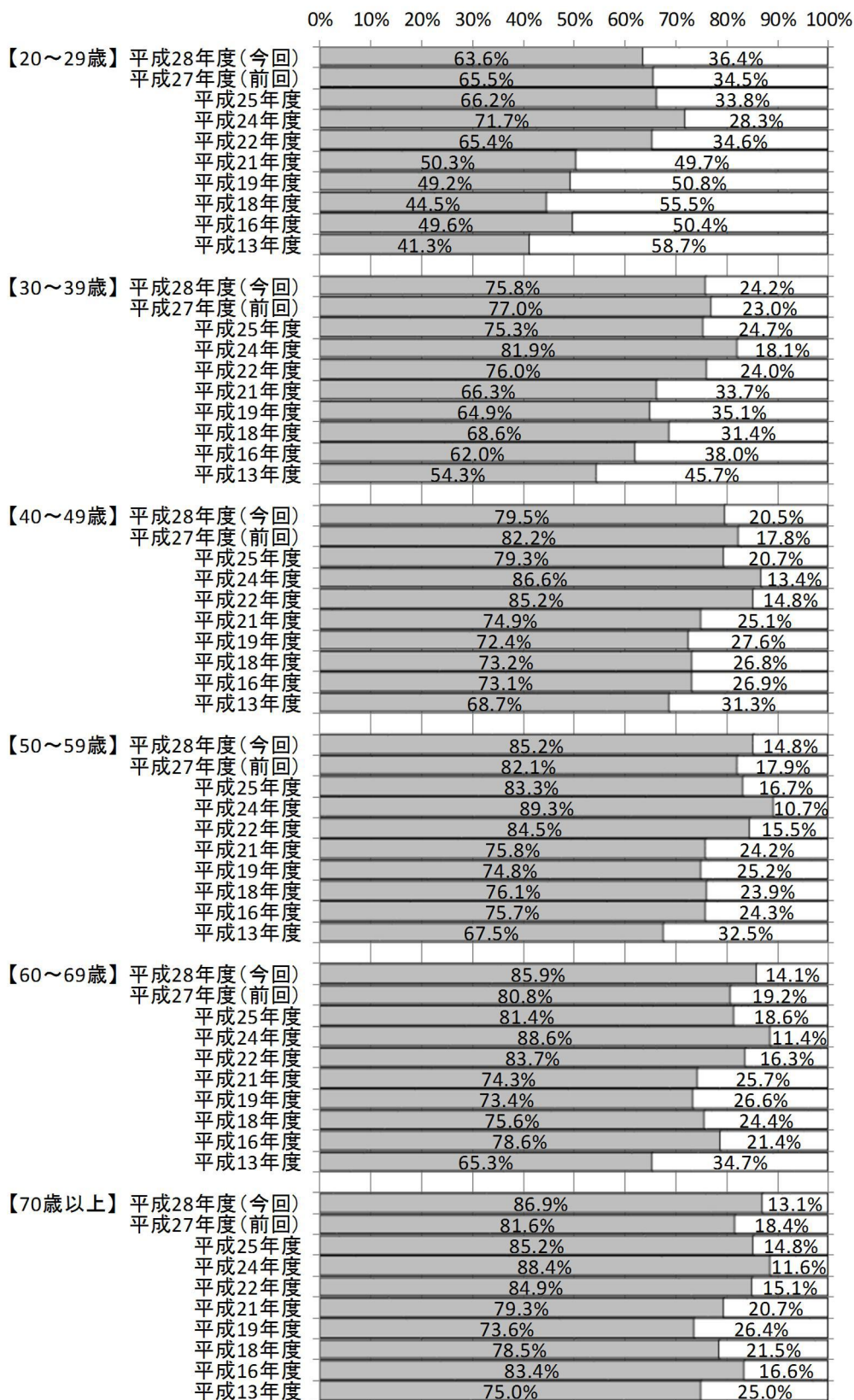
【防災意識×性別】



■ “対策を講じている”の比率 □ “対策を講じていない”の比率

年齢別にみると、“70歳以上”が最も高く、86.9%を占めています。次いで、“60～69歳”が85.9%で続いており、最も低いのは“20～29歳”の63.6%となっています。年齢が高くなるほど、災害に対して何らかの対策を講じている人の割合が増える傾向となっています。

【防災意識×年齢】



■ “対策を講じている”の比率 □ “対策を講じていない”の比率

第4節 安全で快適な生活環境の実現

第5項 犯罪や事故のない安全で快適な市民社会をつくれます

めざしたい将来像:

犯罪や事故、消費者トラブルのない安全・安心のまちづくりに向けて、市民一人ひとりの心がけと地域の見守り等を実施し、お互いに助け合える社会を実現します。

指標

消費者トラブルに巻き込まれた人の割合

(1) 指標の説明

自立した消費行動をとれるように支援するため、消費者トラブルに巻き込まれた人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q16 あなたは、この1年間に買い物などの消費の際にトラブルや被害にあったことがありますか。次の中からトラブルや被害にあったことをお答え下さい。(あてはまる番号全てに○)

- 1 店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 2 訪問販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 3 通信販売(ネットオークション含む)で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 4 電話勧誘販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 5 その他()
- 6 トラブルや被害にあっていない

(3) 指標の現状

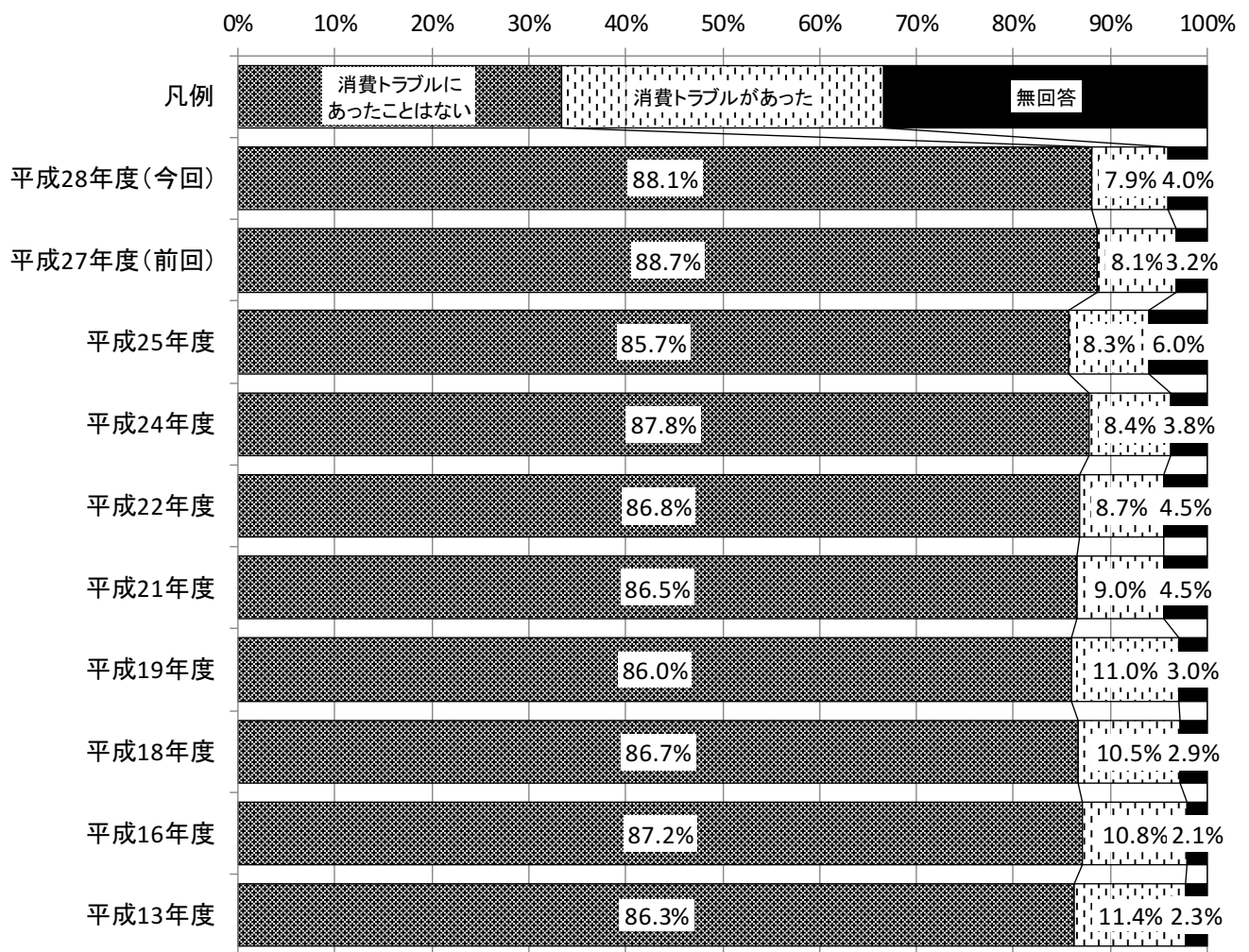
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
消費トラブルや被害 に巻き込まれた	11.4%	10.8%	10.5%	11.0%	9.0%	8.7%	8.4%	8.3%	8.1%	7.9%

※減少した方がよい指標です。

(4) 指標の分析

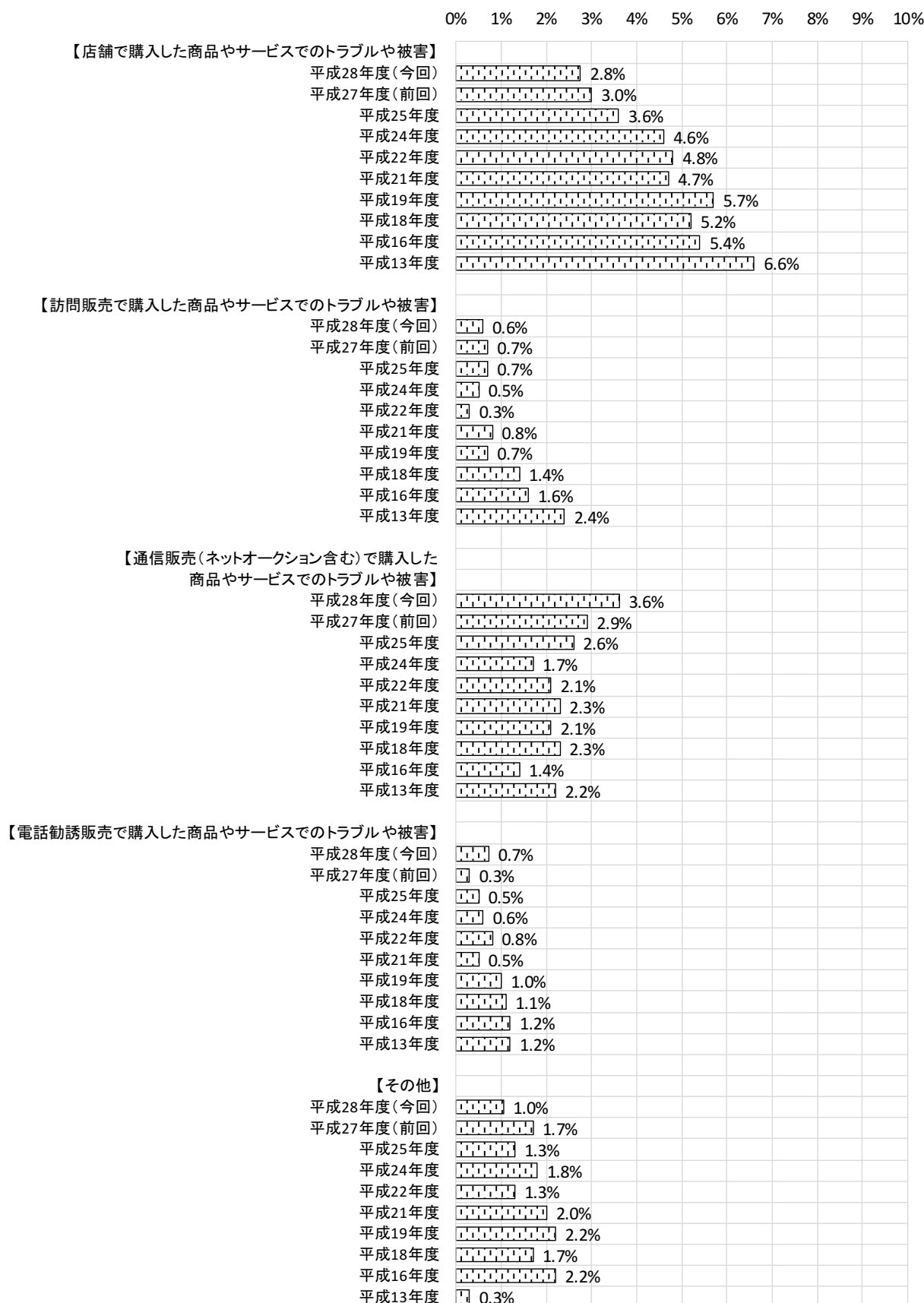
☆消費者トラブルに巻き込まれる人は概ね減少傾向にあります。

この1年間に何らかの消費者トラブルに巻き込まれた人は7.9%であり、年々、減少傾向となっています。



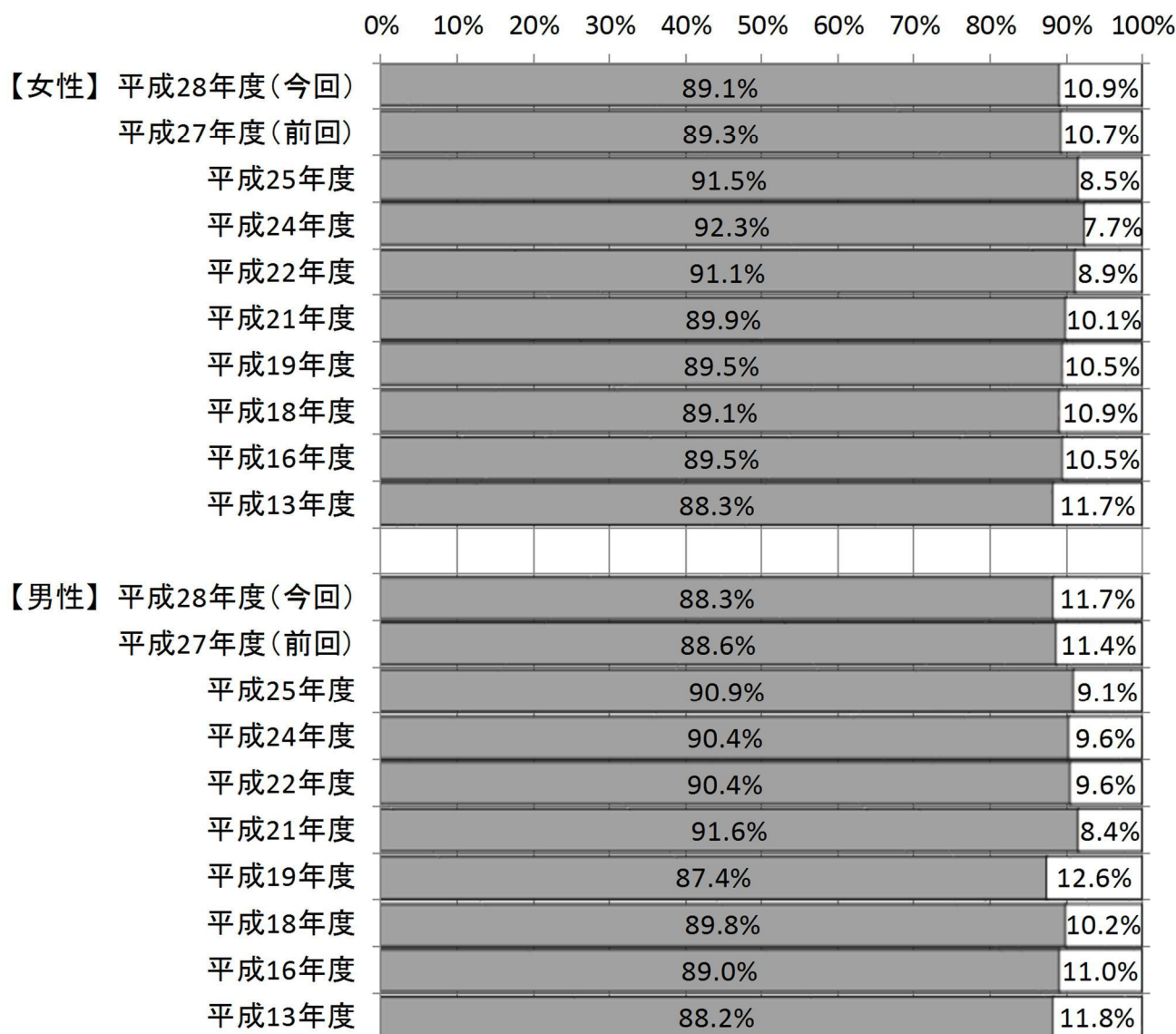
消費者トラブルの内容としては“店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害”が 2.8%ですが、年々、低下する傾向にあります。

一方、“通信販売(ネットオークション含む)で購入した商品やサービスでのトラブルや被害”が 3.6%であり、年々、増加する傾向にあります。



性別で見ると、“女性”よりも“男性”の方が“消費トラブルにあった”人の割合がわずかに高くなっています。“男性”は前回調査の11.4%から11.7%へ0.3ポイント、“女性”は10.7%から10.9%へ0.2ポイント増加しています。

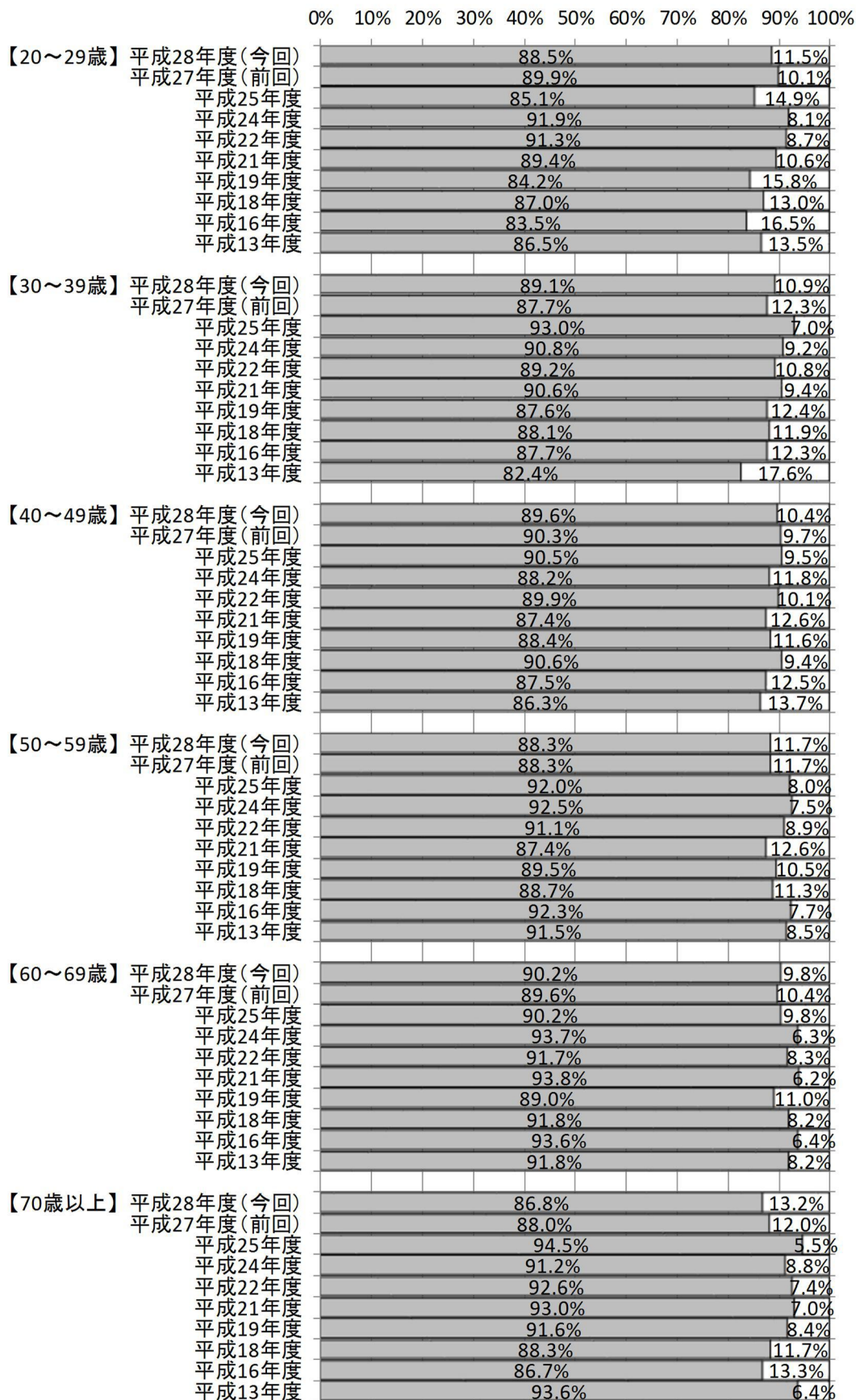
【消費トラブル×性別】



■ “消費トラブルはない”の比率 □ “消費トラブルがあった”の比率

年齢別にみると、“20～29歳”、“40～49歳”および“70歳以上”の年齢層で“消費トラブル”にあった人の割合は増加しています。“20～29歳”、“70歳以上”は前回調査より1.4ポイント、1.2ポイント増加しています。

【消費トラブル×年齢】



□ “消費トラブルはない”の比率 □ “消費トラブルがあった”の比率

第4節 安全で快適な生活環境の実現

第6項 緑と花に親しむことができるようにします

めざしたい将来像:

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力による協働を推進します。そして、人と自然を大切に思いやりの心もち、豊かで潤いのある生活ができるまちを実現します。

指標

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

(1) 指標の説明

緑や水にふれあう機会が増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

※「緑地・河川などの自然環境」の項目

Q18-ケ あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次の各項目ごとに、あなたの考えに最も近いものをお答え下さい。(それぞれ1つに○)

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6

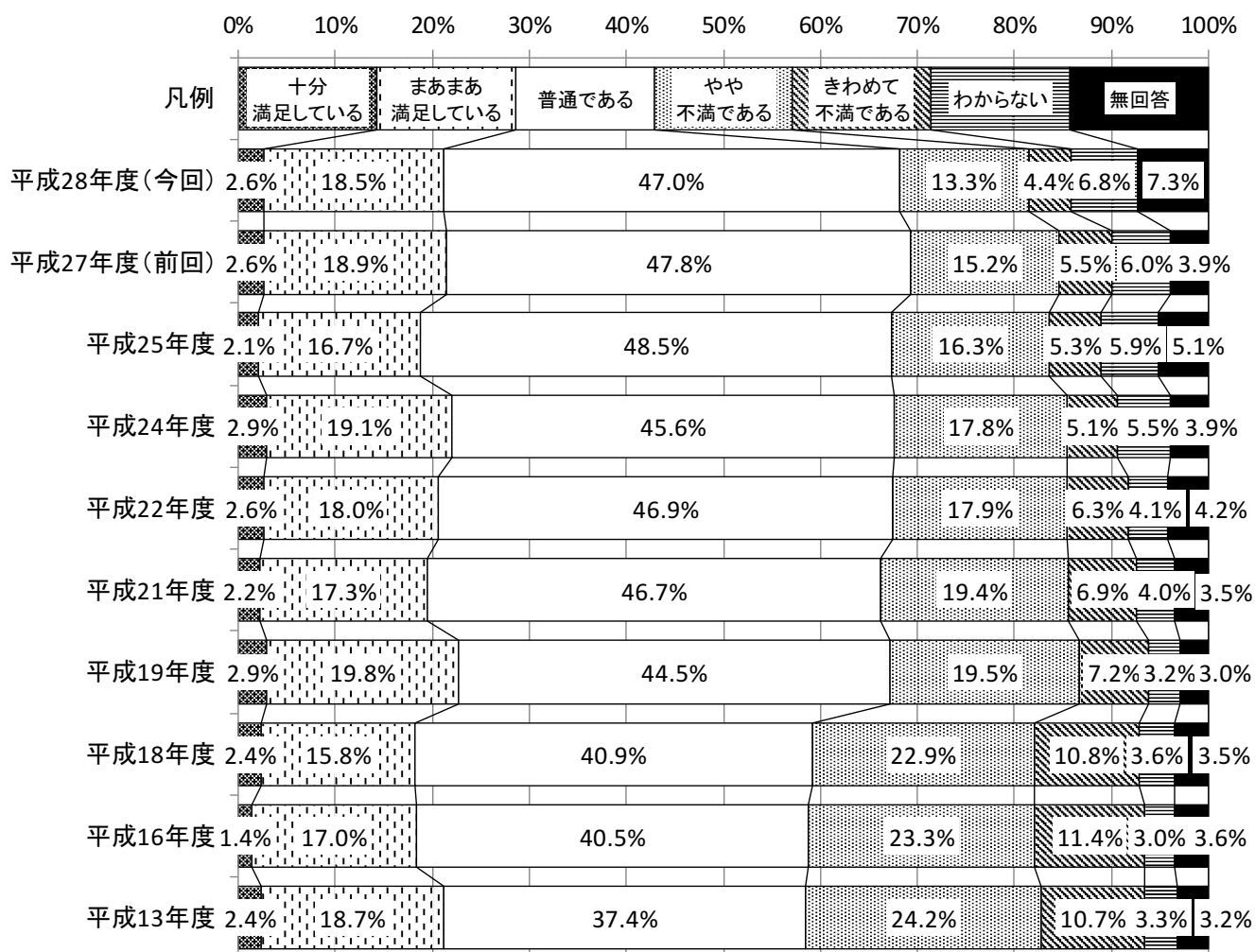
(3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%	2.6%	2.9%	2.1%	2.6%	2.6%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%	18.0%	19.1%	16.7%	18.9%	18.5%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.4%	20.6%	22.0%	18.8%	21.5%	21.1%

(4) 指標の分析

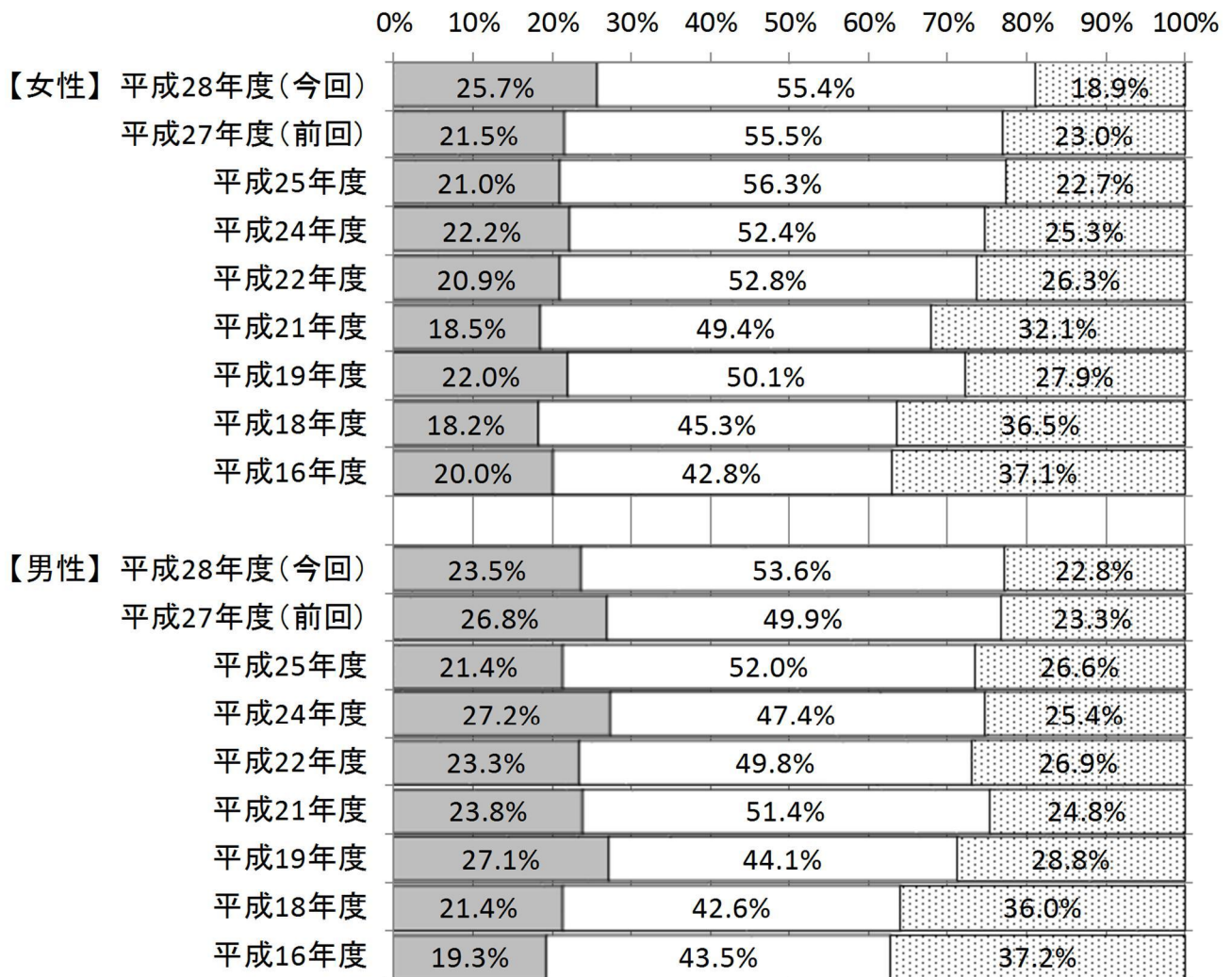
☆自然環境に対する満足度は21.1%と前回調査より、やや減少しています。

緑地・河川などの自然環境に対する満足度をみると、“十分満足している”(26%)、“まあまあ満足している”(18.5%)をあわせた満足という回答の割合は21.1%となっています。一方で“やや不満である”(13.3%)、“きわめて不満である”(4.4%)をあわせた不満は17.7%となっています。



性別で見ると、満足しているのは“女性”25.7%となっています。“男性”は前回調査より3.3ポイント低下して23.5%となっています。“女性”の方が“男性”よりも自然環境に対して満足している割合が高くなっています。

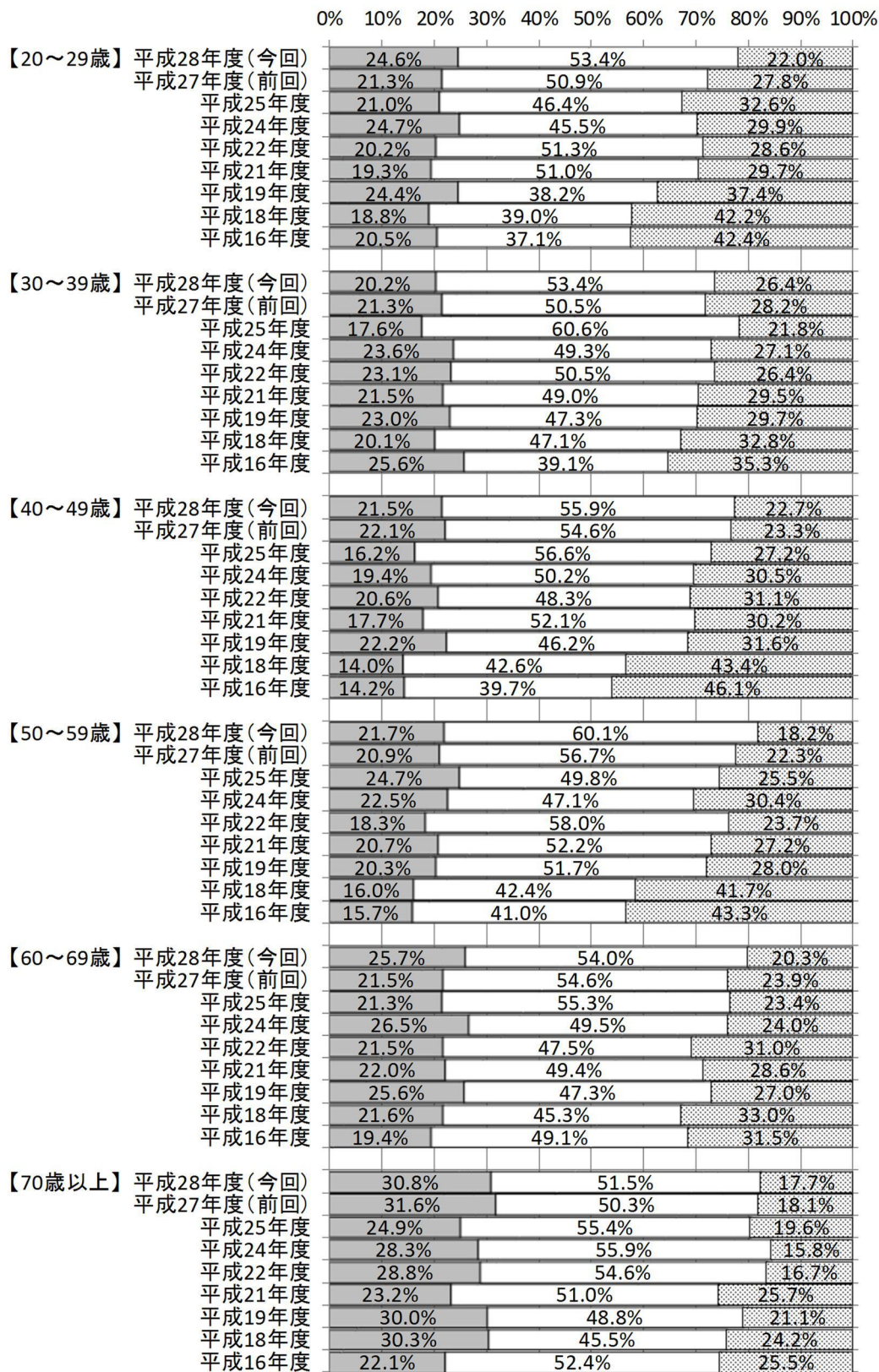
【自然環境×性別】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- ▨ “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率

年齢別にみると、“70歳以上”で自然環境に対して“満足している”人は30.8%であり、割合が最も高くなっています。全年代で自然環境に対して“満足している”人は20%を超えています。

【自然環境×年齢】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- ▨ “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率

指標

身近で緑が守られ、増えていると感じる人の割合

(1) 指標の説明

暮らしの中に緑があり、心豊かな生活を実現するため、身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q10 あなたは、身近で街路樹や緑地が守られ、増えていると感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 守られ、増えていると感じている | 3 守られていないと感じている |
| 2 守られていると感じているが、増えているとは感じていない | |

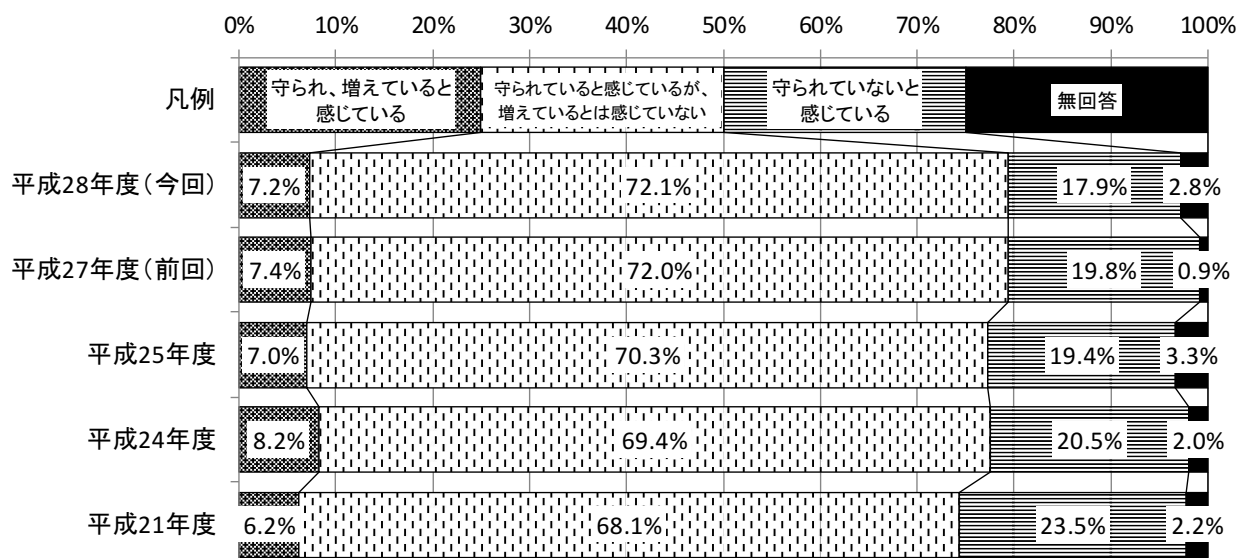
(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
守られ、増えている と感じている	6.2%	8.2%	7.0%	7.4%	7.2%

(4) 指標の分析

☆身近で緑が守られ、増えていると感じている人は1割未満となっています。

“身近で緑が守られ、増えていると感じている”人は、7.2%であり、前回調査の7.4%から0.2ポイント減少しています。
 “守られていないと感じている”人は17.9%であり、前回調査の19.8%から1.9ポイント減少しています。



性別でみると、“身近で緑が守られ、増えていると感じている”人は、“女性”は前回調査より1.0ポイント低下の7.2%、“男性”は1.6ポイント増加の7.5%となっています。また、守られていると感じている人の合計は男女とも約8割となっています。

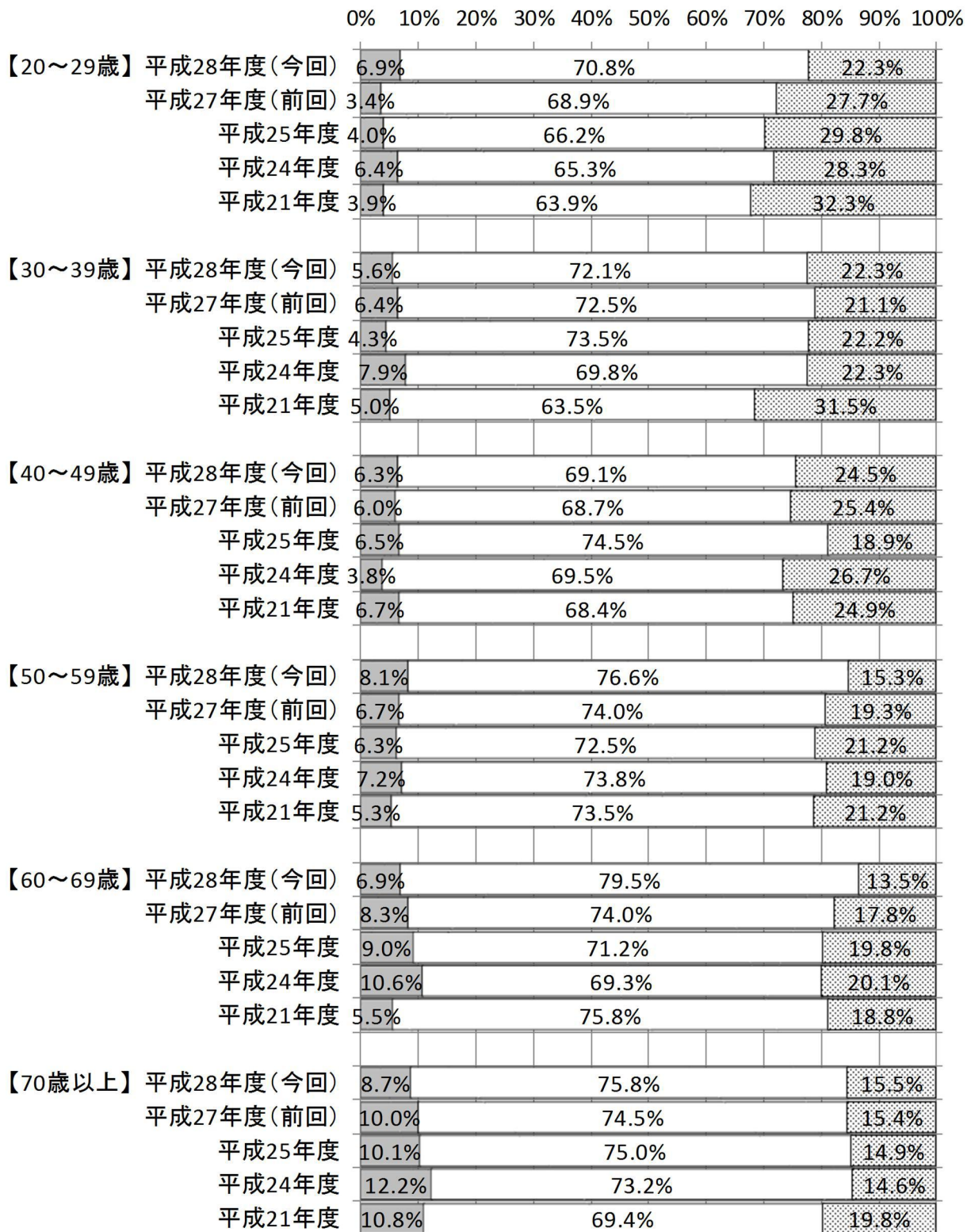
【街路樹や緑地が守られ、増えている×性別】

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
【女性】平成28年度(今回)	7.2%					76.3%					16.5%
平成27年度(前回)	8.2%					73.8%					18.0%
平成25年度	7.8%					73.7%					18.5%
平成24年度	9.1%					70.0%					20.8%
平成21年度	6.4%					69.3%					24.3%
【男性】平成28年度(今回)	7.5%					71.8%					20.7%
平成27年度(前回)	5.9%					71.2%					22.8%
平成25年度	6.2%					71.6%					22.2%
平成24年度	7.2%					71.1%					21.7%
平成21年度	6.1%					70.5%					23.4%

- “守られ、増えていると感じている”の比率
- “守られていると感じているが、増えているとは感じていない”の比率
- ▨ “守られていないと感じている”の比率

年齢別にみると、“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人が最も多いのは“70歳以上”であり、8.7%となっています。ただし、前回調査と比較すると、1.3ポイント減少しています。守られていると感じる人の合計は全年代で8割近くに達しています。

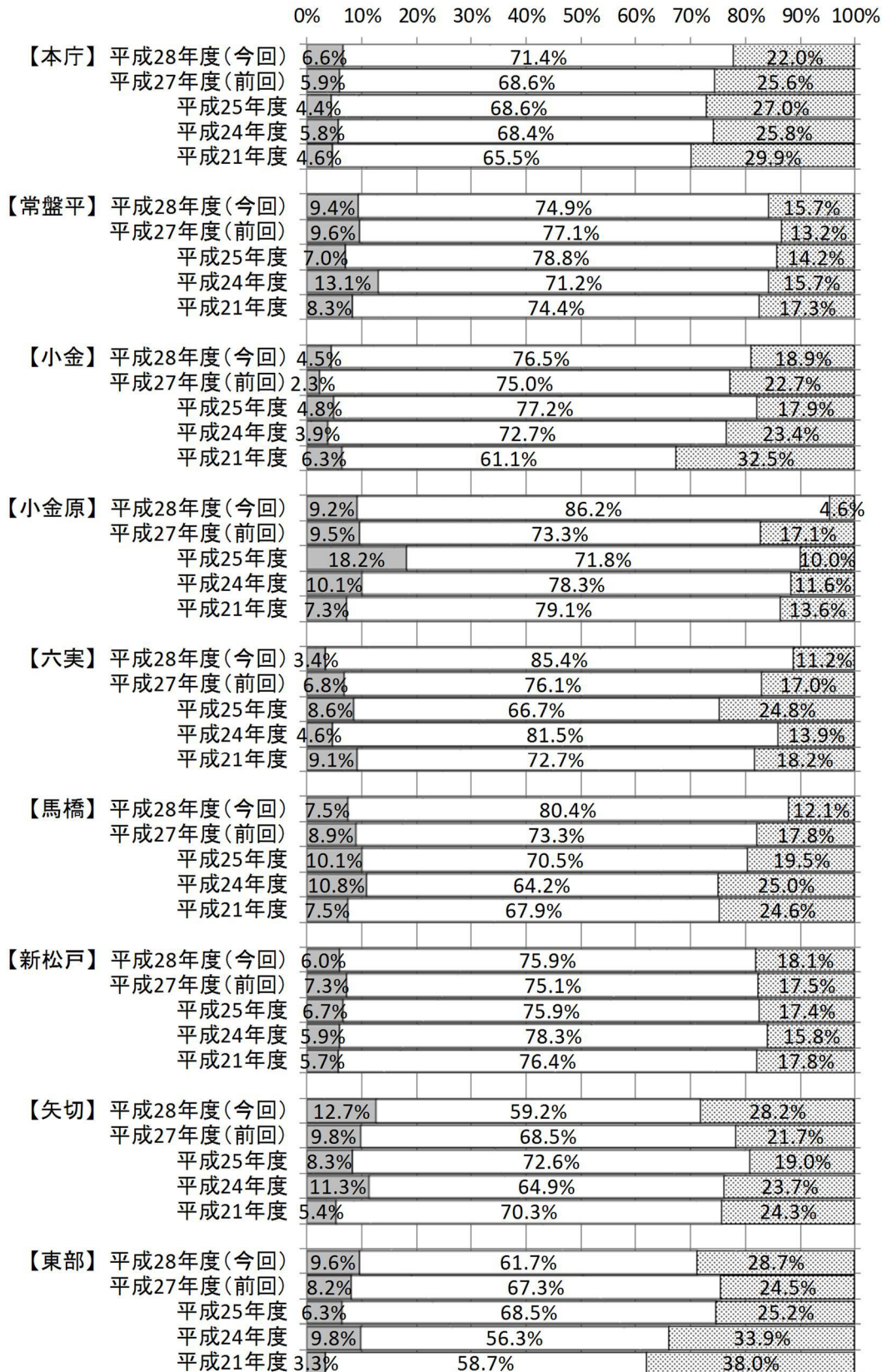
【街路樹や緑地が守られ、増えている×年齢】



- “守られ、増えていると感じている”の比率
- “守られていると感じているが、増えているとは感じていない”の比率
- ▨ “守られていないと感じている”の比率

地区別にみると、“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人が最も多いのは“矢切地区”であり、12.7%を占めています。“守られていない”と感じている人は、全体として減少する傾向にあることがうかがえます。

【街路樹や緑地が守られ、増えている×地区】



- “守られ、増えていると感じている”の比率
- “守られていないと感じている”の比率
- ▨ “守られていないと感じているが、増えているとは感じていない”の比率